

2010 年夏に沖縄島 300 水系で一個人が直接確認した外来魚の分布

嶋津 信彦

<http://www.youtube.com/user/shimadzu1984>

2010 年 6 月下旬から 10 月中旬に沖縄島 300 水系において、延べ流程 340 km を踏査し、外来魚の分布を記録した。外来魚の確認は、川を遡りながら主に目視観察で行い、適時、潜水目視やタモ網での採集確認も併用した。千原池、南風原ダム、大城ダムでは投網による採集を行った。結果、カワスズメ属は、最も多い 141 水系で記録され、うち 102 水系ではモザンビークティラピア、11 水系ではナイルティラピアの各雄婚姻色個体が確認された。グッピーは、次に多い 120 水系で確認され、野生型が大部分であったが黄変種の個体群も見つかった。コイは 54 水系で確認され、カワスズメ属やグッピーと比べ北部での分布の割合が多かった。23 水系でニシキゴイ、10 水系で体長の短い個体も確認された。ナマズ類やジルティラピアなどは、人口密度の高い南部に分布が集中していた。一方、ダニオ類やアカヒレなどは、多くの希少生物が分布する北部でのみ記録された。モツゴは、今回確認されなかった。私が 2005 年頃モツゴを採集した比謝川では、その当時採集されなかったソードテールが代わりに確認された。ソードテールは、北部での分布拡大も著しく、草食性が強いことから、希少なボウスハゼ類や復元を目的に放流されているリュウキュウアユへの影響が危惧された。

表 1. 2010 年夏に沖縄島 300 水系で確認した外来魚の分布。

No	分類群	地域 踏査水系数 延べ踏査距離 (km)	分布水系数			
			北部	中部	南部	計
			118	94	88	300
1	コイ <i>Cyprinus carpio</i>	23	18	13	54	54
	ニシキゴイ	10	6	7	23	23
	ヒレナガニシキゴイ	1			1	1
	短いコイ	4		6	10	10
2	キンギョ <i>Carassius auratus auratus</i>	1		5	6	6
3	ゲンゴロウブナ <i>Caras. cuvieri</i>			1	1	1
4	モツゴ <i>Pseudorasbora parva</i>				0	0
5	ゼブラダニオ <i>Danio rerio</i>	2			2	2
6	パールダニオ <i>D. albolineatus</i>	1			1	1
7	アカヒレ <i>Tanichthys albonubes</i>	1			1	1
8	ヒレナマズ属 <i>Clarias</i>				3	3
9	セルフインプレコ属 <i>Pterygoplichthys</i>			4	7	11
10	リュウキュウアユ <i>Plecoglossus altivelis ryukyuensis</i>	4			4	4
11	カダヤシ <i>Gambusia affinis</i>	1	4	14	19	19
12	グッピー <i>Poecilia reticulata</i>	34	42	44	120	120
	黄変個体	1	3		4	4
13	ソードテール <i>Xiphophorus hellerii</i>	11	6	3	20	20
	レッドソードテール	3	1	2	6	6
	ネオンソードテール			2	2	2
14	ブラティ <i>X. maculatus</i>	1			1	1
15	インディアングラスフィッシュ <i>Parambassis ranga</i>				1	1
16	オオクチバス <i>Micropterus salmoides</i>		1	2	3	3
17	ブルーギル <i>Lepomis macrochirus</i>				1	1
18	カワスズメ属 <i>Oreochromis</i>	34	51	56	141	141
	モザンビークティラピア <i>Ore. mossambicus</i>	25	37	40	102	102
	ナイルティラピア <i>Ore. niloticus</i>	1	1	9	11	11
19	ジルティラピア <i>Tilapia zillii</i>	1		5	6	6
20	コンピクトシクリッド <i>Amatitlania nigrofasciata</i>			4	4	4
21	コパディクロミス			1	1	1
22	コウタイ <i>Channa asiatica</i>	1			1	1



図 1. 沖縄島と調査地域。備瀬崎、辺野古崎、残波岬、カンナ崎を境に河口の位置から北部、中部、南部に分けた。



図 2. 沖縄島のグッピー。上:野生型、下:黄変個体